

二〇一九年度 田園調布学園大学

全学部全学科専攻 共通

国語 入学試験問題

全学統一入試

受験番号					

氏名

- (注意)
- 一、解答は、すべて別紙の「解答用紙」に記入してください。
 - 二、受験番号と氏名は、「問題用紙」と「解答用紙」の両方の所定の欄に必ず記入してください。
 - 三、「問題用紙」と「解答用紙」は、試験終了後、かならず提出してください。
 - 四、「問題用紙」に「下書き」「書き込み」などをしてもかまいません。
 - 五、試験時間は六〇分です。

(一) 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

一

見えない人にとって、社会は決して自分の体にフィットするようにはできていません。駅前にはa ホウチ自転車だらけですし、画面はますますタッチパネルが増え、カードで買い物すればサインを求められます。

この不自由さに対して、とりうる方法はいくつもあります。もともとストレートな方法は、行政に異議申し立てを起したり権利を求めてb ガイトウでデモを起こすことでしょう。これらはいわゆる「市民運動」と呼ばれるものです。こうした活動は大切ですし、地道な努力が世論や行政にゆさぶりをかけた前例もたくさんあります。

でも、私がかかわった視覚障害者の中には、それと別の戦略をとる人もいました。① 不自由な環境を物理的に変えようとするのではなく、その意味を変えることによって、生き抜こうとするのです。

そこで使われる武器が「ユーモア」です。ユーモアたつぷりに不自由な状況を読み替えることによって、社会に無理矢理自分を合わせなければならないプレッシャーをかわしてしまふ。それはもしかすると個人的で、単なる強がりにうつるかもしれない。でも決してそんなことはない、と私は思っています^{注1}。まずは具体的に例を見てみます。

二

難波さん^{注2}は、自宅によくスパゲティを食べるのでレトルトのソースをまとめ買いしています。ソースにはミートソースやクリームソースなどいろいろな味がありますが、すべてのパックが同じ形状をしている。つまり一人暮らしの難波さんがパックの中身を知るには、基本的に開封してみるしかありません。ミートソースが食べたい気分のとくに、クリームソースがあたってしまったたりする。

はたから考えれば、こうした状況は一〇〇パーセントネガティブなものです。でも難波さんは、これを単なるネガティブな状況とは受け取りません。食べたい味が出れば当たり、そうでなければハズレ。見方を変えて、それを「くじ引き」や「運試し」のような状況として楽しむのです。「残念というのはあるけど、今日は何かなと思つて食べたほうが楽しいですよ。心の持つて行き方なのかな」「思い通りにならなくてダメだ」「コントロールしよう」という気持ちさえなければ、楽しめるんじゃないかな。

A

難波さんは、見えないことに由来する自由度の減少を、ハプニングの増大としてポジティブに解釈しているのです。② 「情報」の欠如を、だからこそ生まれる「意味」によってひっくり返しているのです。

難波さん以外の視覚障害者からも、似たような「ひっくり返し」を聞いたことがあります。たとえば「回転寿司はロシアンルーレットだ」という説。お寿司には香りがほとんどありません。見えない人は、目の前を通過する寿司が何のネタかを確認することができないのです。もちろん、お店の人に頼んで食べたいものを握ってもらうこともできます。

でも、その状況をあえてゲームとして楽しむこともある。まず皿をとってみて、何のネタかを当てるのだそうです。同様の見方をあてはめれば、自動販売機もおみくじ装置と化します。何が出るか分からないままボタンを押してみる。手軽に「今日の運勢」を試せます。

あるいは、こちらはふたたび難波さんの発言ですが、都会の混雑した道を歩くことを「お化け屋敷」と形容していました。難波さんは、リハビリ期間を終えた後、見えていた頃に住んでいた自宅で一人暮らしを再開しました。ところが、同じ町なのに駅までの道のりがそれまでとは全く別のものになってしまった。まだ「見えない世界の初心者」だったために、歩道に止めてある自転車や、思いがけない突起に、いちいちドキッとさせられていたのでしょう。「富士急ハイランドに最恐c戦慄迷宮という、一度入ったら何時間も出られないお化け屋敷があるんですが、毎日があんな感じでしたよ（笑）」。

IV

最初にこうしたユーモアに触れたとき、私は本当に頭がくらくらするような衝撃を受けてしまいました。なぜなら、③私が思い込んでいた障害者のイメージとあまりにもかけ離れていたからです。もちろん、すべての障害者がユーモラスというわけではないでしょうし、あるときはユーモラスな人が別のときにはそうでないこともあるでしょう。B 家にひきこもっていたい時間の方が長いかもしれない。そのことは承知のうえで、でも④率直な感想として、そうしたユーモアが私の障害者に対するイメージを覆したのは事実でした。

まず、障害のある人の発言で笑う、という経験が新鮮でした。そのころはまだ、見えない人との関わりが浅い時期だったので、無意識のうちに自分が「ホスト役」の気分でした。ところが、見えない人が場を盛り上げ、自分がそれに乗っかるような形になった。その関係が新鮮でした。

C 関わりが深くなるにつれて、視覚障害者で話し上手な人や話し好きな人が意外に多いことを知りました。ある人は、「ぼくたちにとって表現のツールは限られている。だから言葉で相手の心をつかめるように努力している」と語っていました。確かに、そのように心がけているうちに自然と話し上手になった人が多いのかもしれない。

D 、木下路徳さん^注も、小学生で見えにくくなったときに、友達の輪に入りたい、こっちを向いてほしいという気持ちから、話術で人を笑わせられるようになるうと思つたといいます。そこで木下さんがとった行動は、ラジオを聞くことでした。ラジオの語りはまさに視覚像なしでリスナーを魅了できるかどうか勝負です。

「ラジオショッピングなんかでも、指輪がどんなにすごいとか、カニがどういふふう^注に美味しいかをルポしたりするわけですね。それを聞いて、ラジ

オのパーソナリティみたいにしやべれたら、楽しく過ごせるんじゃないかと、漠然と思っていました」

確かに笑いをとることに成功すると、少なくともその一瞬は確実に場を支配することができます。その快感は、見えない人にかぎらず、誰にとっても自信につながるものです。加えて障害について話すときには、暗い話にならないように周囲に気を使ってくれている、という優しさもあつたかもしれません。

△

しかし、パスタソースの衝撃は、単に見えない人の話の巧さうまというだけでは説明がつきません。というのも、⑤難波さんは笑いをとろうと思つて話をでっちあげたわけではないからです。「話のための話」ではない。日々の生活の中で出会う思い通りにならない状況や、どうにもならない現実を、難波さんは実際に「運試し」のようなものとして楽しんでいる。そのことを紹介してくれたまです。私たちはそこで、難波さんの「日常」を⑥垣間見たにすぎません。

「YAMAKASI」という映画をご存知でしょうか。リユック・ベツソン注4が脚本を書いた作品ですが、この映画には、「ヤマカシ」と呼ばれる少年七人のグループが登場します。彼らは実在のグループで、体ひとつで高層ビルをよじ登ったり、屋上から屋上へと飛び回っていく。もちろん危険が伴いますが、人工的な都会の町も、彼らの手にかかるとジャングルのようなものに姿を変えます。

パスタソースや自動販売機で運試しする生き方は、あのヤマカシを思い起こさせます。物理的には同じ環境でありながら、それを全く別の方法で使いこなす痛快さ。ユクスキュル注5の言葉を使つていえば、見えない人ならではの「環世界」に触れたと感ずる一瞬です。

そう、彼らのユーモアは、「痛快」なのです。困難な状況をポジティブに生きていることへの感心や敬意ももちろん感じます。けれども、それだけでは笑いは生まれません。やられた！ その手があつたか！ という感じ。その心地よさが笑いの原因でした。

d均注6なレトルトのパックや自動販売機のシステムは、言うまでもなく見える人が見える人のために設計したものです。率直に言つて、見えない人を排除しています。福祉的な視点に立つなら、あるいは「情報」的な視点に立つなら、そうした排除は可能な限りなくしていくべきでしょう。パッケージに切り込みの印をつけるようメーカーに要望したり、自動販売機に音声案内をつけるように働きかけたりすることもひとつの方法です。実際に、そのような製品も出回っています。

E、難波さんがとつたのは全く別の方法です。健常者が、いわば「大まじめ」に中身どおりのソースをパスタにかけているかたわらで、難波さんはそれを遊びのツールとしてもとらえている。

いまだかつて、レトルトのパックで運試ししようと思つた健常者がいたでしょうか。大都市をジャングルとして生きるヤマカシのように、自分の体に合わないデザインやサービスをナナメから見てみる。そうすることで、彼らの方がむしろ遊んでいるのです。注6

健常者は、製品やサービスに埋め込まれた使い方におのずと従つてしまいます。そんなまじめなユーザーを尻目に、見えない人は決められた道をおか

ていきます。「こっちの道もあるよ！」——何だか先を越されたような気分さえ感じます。

「こっちの道もあるよ！」と先を越されるのが痛快なのは、健常者の社会やeカチカンじまけんそのものが、障害者の使い道によって相対化されるからに他なりません。パスタソースや自動販売機の例は、笑いのジャンルとしては「自虐」に近いものです。ところが、自虐の攻撃対象がふつうはそれを口にする本人であるのに対し、この場合はなぜか言われた方もチクツとやられたような気分になる。だからこそ「痛」快なのです。

なぜ痛みがこちらに返ってくるのか。言うまでもなくそれは、笑いのネタに「障害」が関わっているからです。そして、それを聞いている私たちが、健常者だからです。

しかし、それは単なる痛みではありません。⑦『痛』快』は『痛』快』でもあるわけで、何か「つかえ」がとれたような気分にもなる。痛すぎると笑えなくなってしまうですが、快さがあるかぎり、その笑いは⑧建設的なものです。

(伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』より)

注1 この後に「その理由については最後に述べましょう。」の一文がある。問題文の中には「理由」について述べられていないので、この一文を省略した。

2 3DCGのデザイナーだったが、三九歳の時に事故で失明、全盲となった。鍼灸・マッサージ店を営むかわら、「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」で活躍する。

3 生まれつき弱視で一六歳のときに失明、全盲となった。「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の案内役や「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」ナビゲーターなど各種ワークショップで活躍する。

4 フランスの映画監督。脚本家、映画プロデューサーでもある。

5 ヤーコブ・フォン・ユクスキュル。エストニア生まれの生物学者。ユクスキュルによれば、生物は、客観的に同一にとらえられる世界ではなく、周りの事物に自身で意味を与えてそれによって自分の世界の中で生きている。この自分にとっての世界を「環世界」と呼ぶ。

6 この文の直後に原文では「第1章で、見えない人は「道」から相対的に自由だという話をしました。」とあるが、省略した。

問一 二重傍線部a) e)について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部④「率直な」、⑥「垣間見た」、⑧「建設的な」について、本文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

④ 率直な

- ア 思っていることをずけずけ言うようす
イ 飾らずに遠慮なく言うようす
ウ 遠回しにおだやかに言うようす
エ 前置きなしでいきなり話に入るようす
オ 短く簡潔に言うようす

⑥ 垣間見た

- ア ありのままの姿を注意してみた
イ すきまからちらりと見た
ウ 高い存在として畏敬の目で見た
エ 高いところから広く見渡した
オ 目をそちらに向けてよく見た

⑧ 建設的な

- ア 新しいものを打ち立てていくようす
イ 現実から離れて夢でもみているようす
ウ すべてのものに共通しているようす
エ 今までになかったためざましいことをするようす
オ 物事を積極的によくしていこうとするようす

問三 空欄A、B、C、D、Eに入る最も適当なことを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア けれども イ したがって ウ たとえば エ つまり オ ところで カ とりわけ キ もしかしたら ク もっとも

問四 傍線部①「不自由な環境を物理的に変えようとする」とあるが、具体的にはどうすることか。これ以降の本文中から、それにあたる部分を六〇字以内で抜き出し、最初と最後の五文字を答えなさい。ただし、句読点を含む。

問五 傍線部②「情報」の欠如を、だからこそ生まれる「意味」によってひっくり返している」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア レトルトの袋が同じ形状をしているから、中身がわからないという見えない人の「情報」は、目が見える人には知られていないが、ユーモアを持つて説明すれば理解者が増えていく。

イ レトルトの中身がわからないというような、見えない人が困っているという情報が一般にあまり伝わっていないが、「くじ引き」や「運だめし」という言葉によって意外な意味が伝わる。

ウ 見えないことによる、レトルトの中身が何かという「情報」の欠如を、ソースが選べなくてつらいととらえるのではなく、今日はどんなソースがあたるかなどとくじ引きのようで楽しいととらえる。

エ 見えない人にとって日常生活の中でさまざまな情報が欠如しているという現実を、暗くならないように意識してユーモアたっぷりに説明することによって、かえって見える人の心に響かせる。

オ 見えないからレトルトの中身が何かという「情報」が与えられず、つらく悲しいと思ったところでどうにもならないので、その現実を受け入れて意識的に明るくふるまうように心がける。

問六 傍線部③「私が思い込んでいた障害者のイメージ」とあるが、どのようなイメージをいうのか。次の中でそのイメージと最も関わりのあると思われるものを一つ選び記号で答えなさい。

- ア 障害者は生きる困難を抱えて不自由でつらく、人を笑わせる余裕などない。
- イ 障害者は自立して生きる困難を抱え、健常者の支援なくして生きられない。
- ウ 障害者は困難な状況を何とか改善しようと。ポジティブに生きている。
- エ 障害者も時には笑いで盛り上げるなどして、場を支配したい。
- オ 障害者は自分たちの話で暗くならないように健常者に気を使う。

問七 傍線部⑤「難波さんは笑いをとろうと思って話をでっちあげたわけではない」とはどういうことか。その説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 見えない人が都会の混雑した道を歩くことや、映画の少年グループ「ヤマカシ」が高層ビルをよじ登ったり飛び移ったりすることは、大きな危険を伴うが、ソースの袋の「運試し」は日常の中のおだやかな試みである。
- イ 見えないという環境の中でパスタソースの袋の開封を「運試し」とみることによって、健常者には思いもつかなかった遊びを発見し、見える環境に「大まじめ」に従っている健常者を笑っている。
- ウ 都会の混雑した道を歩くことを「お化け屋敷」という話は、聞き手に笑いを呼ぶユーモアによるものであるが、ソースの袋の「運試し」の話は、生活の中の切実な思いを反映したものであってユーモアではない。
- エ 都会の混雑した道を「お化け屋敷」と形容した話も、パスタソースの袋の開封を「運試し」とする話も、映画の少年グループ「ヤマカシ」が都会をジャングルのように見なし行動する話も、みな驚くべき実体験である。
- オ 都会の混雑した道を歩く話を「お化け屋敷」に見立てたり、パスタソースの袋の開封を「運試し」と考えたりする話は、生活の中で物理的な困難を抱える状況をハプニングと読み替え遊び楽しんでいる。

問八 傍線部⑦「『痛』快」は「痛『快』」でもある」とあるが、どういうことか。百字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

(下書き用)

問九 空欄「くく」には次の小見出しが入る。各々に最も適当なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 回転寿司はロシアンルーレット
- イ 今日食べるパスタは、ミートソース味か、クリームソース味か
- ウ 決められた道をかわず
- エ 「不自由さ」の扱い方
- オ ぼくたちにとって表現のツールは限られている。だから……

(二) 次の文章は、曾野綾子の小説「冬の油虫」の一節である。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

知子はその頃母と二人暮しであった。軍人だった父が癌で亡くなり、とりわけ美人というほどでもない知子は二十八で、終戦を迎えた。

何となく年をとってしまったという感じであった。縁談もいくつかあり、恋というほどではなくとも、恋に似た感情をもった相手もあった。しかし知子ほどの場合にもふんざりがつかなかった。自分は男に冒険心をおこさせない女だ。自分は看護婦か保姆注1になら、適当な女だ、と

A

思ったことも

ある。恋が煮えないのはその辺に理由があった。最初からブレイキがかかっているだけに、相手を失う苦しみもひとより弱くてすんでいるように思う。京都は、淡い恋に似た思いをかけた一人の青年の出身地である。彼女の家に京都出身の学生を頼まれて下宿させていたことがあって、知子は彼の話で京都の生活の匂いを知ったのであった。京都の母という人から彼にたけのこや漬物を送って来ることもあった。かわいがられて育った赤ん坊がその儘ま大きく

なって、今でも誰かに甘えたがっているような幼さのどこかに残っている青年だった。知子が彼と話をするのは、もっぱら洗濯物を持って行く時とか、食事を知らせに行く時とかに限られていた。もし年下の彼に対する恋が芽生えかけていたとしても、知子はそれを彼に対する友達か姉のような親切、という形でしかあらわせなかった。もし年下の彼に対する恋が芽生えかけていること、夜具の襟をいつも綺麗なものにかけてやること。

X

彼が好きだという蛭しじみの味噌汁を作ってやる

そこへ率然注2別の女が現われた。土曜日になるとやって来るので土曜夫人というアダ名がついていることは、後で青年の友人から聞いた。

土曜夫人はまだ十八ぐらいだった。はつきりした二重ふたえまかた瞼の下に杏あんずの種のような眼がぱっちり見開かれている。彼女は男の下宿へ来ても、決してつくろいものをしたりしない。その代り彼女は美しい恰好かっこうで足を投げ出して坐り、野性的な効果を意識してリングかじを嚙かった。知子がお茶を持って行くと、娘は、

「あら小母おぼさん、御心配なく」

と言った。①計算の上でそういうことを言ったのか、無邪気なのかわからなかった。

もともと②ひとり相撲だった恋である。知子はその夜、二人が出て行ってしまった後、花鉢はなばさみを持って、庭へ出た。あたりが青白いほどのいい月夜であつ

た。彼女は、庭の隅へしゃがみこむと、枯れた紫陽花の下枝を剪きった。しかし

B

彼女は枯れていない枝までも少しずつ切り始めた。③本ま当まに切り

とりたかったのは、自分の心のいたんだ部分であった。その時縁側が開いて、母が声をかけた。

「知ちゃん、うちへ入って。お願いだから」

最後の一言で、知子は母が何もかも見ぬいていることを知った。知子は涙を紫陽花の蔭でぬぐった。母はとっておきの羊羹ようかんにお茶を入れてくれた。母の髪はa神々しいばかりの純白だった。それでもなお母は太っている。そのために皺しわはあまり目立たなかった。温い手と温い胸、をしてゆったりといつも清らかな感じで坐っている。

母は何も言わない。何も言わなかったために、却って知子の心のbキキは軽く吹きぬけて通りすぎた。二、三日すると母は青年を下宿させてやってくれと頼んだ人に会いに行き、当人にも適当な理由を見つけて話し、やがて部屋をあげ渡してもらった。

本当にそれ以外に、忘れる方法はない。男の心をひくには、洗濯やつぎものをする以上の手があるのだ、とわかっていても今になって俄かに実行出来るものではない。土曜夫人とは結局結婚しなかった様子である。彼は他の女を妻とし、やがてレイテ^{注3}で戦死した。どっちみち未亡人になる運命であった。横田光行との縁談がおこったのは、こうした嵐がすべておさまって、いたずらに長い無風状態が続き始めた時である。幸い戦災はまぬがれたようなもの、娘を嫁にもやれないでいては、母親としても、死んでも死に切れないだろう、という伯父の余計なおせっかいからであった。

ほっておいてくれれば、二人なりの生活は静かであったものを、縁談があるといわれれば母も動揺する。初めて会った時の横田は今の横田と比べてもさして若いようには思われぬ位だった。彼は小さい体を一そう小さく見せるような、寸法のつまった服を着ていた。横田は妻を亡くして五年目であった。

横田が優しい男である、ということが伯父の横田をcスイセンする最大の理由だった。横田は八年も肺病でねたきりの妻を看病しつづけ、その妻が死ぬと、骨箱を抱いて空襲の火の中を逃げまわった。そんな間にも、彼は抜け目なく焼けた東京の土地をあちこち買いこんだ。彼の愛妻物語が、辛うじて浪花節^{ななわがし}にならずにすんだのは、そのお蔭である。もともと彼のそうした理財の観念は、決して大企業に適したのではなく、国内の動乱に馴れた中国人が、己一人だけを守るために身につけた知恵に似ていた。もともと、あまり高級なものだったら、とうてい家具屋の伯父にはそのよさもわかりかねたであろう。横田の買った土地は、財産税の時に半分以下に減ってしまったけれど現在のような地価の値上りをみるとなお相当な財産であった。横田はもともとはスナップや鉤^{かぎ}ホックなどを作る小さな町工場を経営していたのだが、戦後はそれもやめて、たまに釣に行くのを唯一の楽しみにして運塞^{ひっせき}していった。

「何しろ女の代りに五年間も魚を相手に暮して来たような物がたい男だから」

と伯父は言った。魚の代りに姪を押しつけようとしているようで考えれば滑稽であった。見合の席で、ふと知子は、この人は母を好きになればいいのに、と本気で期待したものであった。この男が母と結婚することになったら、自分はどうなるかということまでは考えない。自分よりも母の方が美しい女であるのに、と知子は思った。

横田光行は、今家にいる先妻との間に出来た男の子のことを御承知願わなければならぬ、ということをややぐちっぽい調子でC話した。男の子は十八であった。もう別にとりたてて手がかかるといふこともないが、せめて話をきく友達になってやってもらいたい、というのである。何でもないことをぐちっぽい調子で言うところがこの男の人間の小ささと、気の弱い優しいところを同時に示していた。

資産内容は、目下のところは持っている土地も値上りしたし、株も相当あるので何もしないでも食べて行かれる。なまじつか下手に商売に手を出すと、損をすることが多いからと思つて、今まで④鳴かず飛ばずでいたけれど、居食^{いぐ}いまでは心配だといふのならどこかへ勤めて毎月一定の額の現金が入るようになってもいい、と横田は心配そうに言うのであった。決して自分でもう一度仕事を始める、とは言わない。この男なら、平の事務員になつても金がいふとなれば真面目に勤めそうな感じである。

次の機会には横田の家へ行き息子の英作とも会つてみて、彼の方が父親よりはるかにのびのびした性格であるのがわかった。はにかんでいるけれど、知子の母が庭先でころんだのを見ると、一生懸命、葉や繻帯^{ほうたい}や、泥を落す雑巾を運んでくれる。そんなことが却つてその場の気分をときほぐした。男二人が女中と暮しているために、何となく冷え冷えとはしているが、家も日本風で三十坪ほどあり、けちなものながら母がころぶほど、泉水のほとりには庭石な

ども入れてある。

横田自身には何の魅力もなく、このまま放っておけば、そのままお流れになりそうな状態が、伯父の仲人口なつこくち注7と、母のすすめによって縁談はまとまることになった。横田は最初から結構だと答えていたらしい。横田のような男こそ、女なら誰でもいいというような意味で、最もdカンダイな夫であった。

⑤自分がいなくなった後、たった一人で住むことになる母が、いそいそと仕度をしてくれる。母さんひとりになれば、あれもいらぬ、これもいらぬ、皆知ちやんが持つて行きなさい、と品物はふえるばかりで、仕度は、結構トラック一ぱいになった。今と違ってまだ物資もそんなにe潤沢ではない時だけに母という立場にたつと、どうして、これほどに自分を殺さねばならないのかという感じも強く知子は腹立たしいような気持さえした。自分がいなくなれば、⑥淋しくなることはわかり切っているのにいそいそとして娘を送り出そうという母の愛は卑怯だとも思った。

もともと大きな期待をして嫁入ったのではないが、横田光行の身辺には、まだ亡くなった先妻の京子の匂いがつきまとっていた。写真で見る京子は痩せた眼の大きい女で、笑い声が楽しそうだったという横田の言葉通り、甘い雰囲気をもっていた。

「只もう死んだということだけで欠点を忘れていられるのだから、私が例え京子のことをほめても気にしないで下さいよ」

と横田は言ったが、事実結婚して間もなく、古いつきあいの来客があった時に、京子の名前が出ると、横田はD涙を流した。寝ているだけで何一つとして妻の役目が果せなくても、彼女が家にいるだけで、家の中はぱっと電燈のともったような感じだった、と横田は言っていた。そこへ知子がお茶を運んで来たので、来客は⑦間の悪そうな顔をしていたが、横田は平気だった。横田はそういう点では恐らく正直なかくしだてのない人間だった。

注1 保母のこと。

2 突然。事が急に起こるさま。

3 フィリピン中部の島で、太平洋戦争の末期、日米の激戦地となった。

4 多く軍書・講釈・物語・演劇・文芸作品を材料とし、節調を加えた語り物。義理人情を主題とするものが多い。

5 ひっそり暮らすこと。

6 働かず、手もちの財産で暮らすこと。

7 仲人が縁談をまとめるために、両方に相手方のことをうまく取りつくろってという言葉。

問一 二重傍線部 a e について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部②「ひとり相撲だった」、④「鳴かず飛ばす」⑦「間の悪そうな顔」について、本文中の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

② ひとり相撲だった

- ア 一人で気ままに相手を思っていた
- イ 勝手にやきもきしていた
- ウ 釣りあいごとれていなかった
- エ 自分だけで気負いこんでいた
- オ 架空の相手を想像していた

④ 鳴かず飛ばす

- ア 人目を避けて忍んでいる状態
- イ 目立った活躍をしないでいる状態
- ウ 平凡な生活に満足している状態
- エ 無理せず、安穩にしている状態
- オ 失敗を恐れ、成功を手に入れられない状態

⑦ 間の悪そうな顔

- ア タイミングが悪く、体裁が悪そうな顔
- イ 機会を逸して、ばつの悪そうな顔
- ウ 具合が悪く、早く帰ったような顔
- エ きまりが悪く、その場から逃げ出しそうな顔
- オ 思いがけないことに出会って、呆然としている顔

問三 空欄Xに入る最も適当な語句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 悩みを聞いて、アドバイスをしてやること
- イ 一緒に音楽を聴いたり、雑誌を見たりすること
- ウ 彼と議論を交わし、その思想を理解してやること
- エ 心の支えとなり、励ましてやること
- オ ほころびを縫い、ボタンをきちんとしてやること

問四 傍線部①「計算の上でそういうことを言ったのか、無邪気なのかわからなかった」とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 土曜夫人が知子を呼ぶのに「小母さん」という言葉を用いたのは、知子を名前で呼ぶほど親しい間柄に自分はなる気はない、という気持ちがあったることなのか、年上の女性なら誰でもそう呼ぶのか、不明だということ。
- イ 土曜夫人が知子を呼ぶのに「小母さん」という言葉を用いたのは、自分の方が知子より美しく、魅力的な存在であることを青年にアピールしようと企んだからなのか、まだ幼いため適切な言葉が思いつかず、不用意な言葉遣いをしてしまったのか、不明だということ。
- ウ 土曜夫人が知子を呼ぶのに「小母さん」という言葉を用いたのは、自分が知子より若く、青年の相手としては自分の方が年齢的に相応しいことを知子や青年に知らせるという意図があったことなのか、年上の女性を呼ぶ言葉として何の意図もなく用いたのか、不明だということ。
- エ 土曜夫人が知子を呼ぶのに「小母さん」という言葉を用いたのは、知子が青年にとってはつくろいものや洗濯をしてくれる母のような存在でしかないことを知子に知らせるためなのか、悪気はなく自然とその言葉を用いたのか、不明だということ。
- オ 土曜夫人が知子を呼ぶのに「小母さん」という言葉を用いたのは、知子が実年齢より老けていて、青年にとっては恋の相手にはならないことを知子に教えてやろうという気持ちからなのか、自分が若く、かわいいということをアピールしているのか、不明だということ。

問五 傍線部③「本当に切りとりたかつたのは、自分の心のいたんだ部分であった。」とあるが、なぜ「自分のこころ」に「いたんだ部分」が出来てしまったのか。三十字以内で説明しなさい。(句読点も含む)

(下書き用)

問六 空欄A～Dに入る最も適切な語句を次の中から各々一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア だんだんと イ すんなり ウ くどくど エ しみじみ オ ぼろぼろと カ げんなりと キ だらだらと

問七 傍線部⑤「自分がいなくなった後、たった一人で住むことになる母が、いそいそと仕度をしてくれる。」とあるが、このときの知子の心情の説明として、最も適当なものを、次の中から一つを選び、記号で答えなさい。

- ア 母は、自分の結婚後の一人になる生活のことも考えず、母の生活に必要な物まで結婚支度のために持たせようとしてくれた。母というものはそんなにも自分の生活を犠牲にして娘の結婚生活に必要な物を揃えなければならないのかと、うつつしい気持ちすら覚えている。
- イ 母は、自分が結婚すれば淋しい思いをするのに、進んで、物資が少ない中、トラック一杯になるほどの品物を結婚支度のために持たせようとしてくれた。母というものはそんなにも娘の幸福は結婚にしかないと考えているのかと、苛立ちすら覚えている。
- ウ 母は、自分が結婚すれば一人になってしまいうのに、淋しい気持ちを隠して、あえて嬉しそうに、多くの品物を結婚支度のために持たせてくれた。母というものは自らの思いを偽ってまで娘の幸福のために尽くさねばならないのかと、怒りの気持ちすら覚えている。
- エ 母は、自分が結婚すれば淋しい思いをするのがわかってきているのに、楽しそうに、結婚の支度を手伝ってくれた。母というものは娘のために自己を犠牲にするという行為に陶醉しているのではないかと、しゃくにさわるような気持ちすら覚えている。
- オ 母は、自分が結婚すれば一人になってしまいうのに、淋しい気持ちを押殺し、物資が少ない中、多くの品物を結婚支度のために、嬉しそうに持たせてくれた。母というものはそんなにも自らを犠牲にして娘を思わねばならないのかと、怒りたくなる気持ちすら覚えている。

問八 傍線部⑥「淋しくなることはわかり切っているのにいそいそとして娘を送り出そうという母の愛は卑怯だ」とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母の愛は、自分だけが犠牲になり、その愛情を娘に一方的に与えるもので、それを喜んでされると、娘は辛く感じるもので、ずるいということ。

イ 母の愛は、自分の本当の気持ちを押し殺して、偽りの気持ちを娘に示しており、娘は母の気持ちにどう応えたらよいかかわからず、ずるいということ。

ウ 母の愛は、自分だけが犠牲になるような愛情で、娘は母に何もしてあげられず、娘だけが悪者になってしまい、ずるいということ。

エ 母の愛は、自分だけが喜んで犠牲になるというような偽善者めいたものがあり、娘は母に素直に感謝できなくなってしまう、ずるいということ。

オ 母の愛は、自分が犠牲になることばかり考えており、その愛情を娘に一方的に押し付けるだけで、娘は母に愛情を返せないため、ずるいということ。

問九 横田の人物像の説明として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 亡き妻を思う気持ちを新妻に隠そうとしないようなデリカシーに欠けるところがあるが、戦後の地価の値上がりを見込んで土地を買うなど日本経済を牽引する鋭敏な経済感覚の持ち主。

イ 何もしないでも食べて行かれるだけの資産があるので、仕事を辞め、魚釣りを楽しむような風流人であり、亡き妻をいまだに思い続けて涙を流すような愛妻家。

ウ 見合相手に、先妻との間の十八にもなる息子のことをくり返し頼むなど、気弱で優しい面だけでなく、抜け目なく土地を買いこむ理財の才もあり、実直で真面目そうな人物。

エ 普段は、男性としての魅力に乏しく、魚にしか興味がないような変人であるが、国内の動乱の中生き残る知恵があり、いざというとき頼りになる男性。

オ 見合相手に、女なら誰でも好いという態度をとるような無礼なところがあり、亡き妻の名前が出ると涙したり、見合の際に自分の息子のことを心配したりする利己的な人間。

問十 本文の内容の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 戦後、女性が自立して生きていくことは難しく、自分の意志とは裏腹に、愛情のない相手と結婚していかなければならない女性の人生を描くことで、女性の生き方に一石を投じている。
- イ 純粋に相手を思う初恋から、将来の生活を見据えた愛のない結婚へと向かう知子の姿を通して、戦中から戦後の社会の中で男女の愛の形が変化していく様が描かれている。
- ウ 恋愛話や縁談の背後に、過酷な戦争の影が落ちており、戦争によって運命を狂わされた人々が各々のやり方でその後の人生を生き抜く様を描き、戦争批判を訴えている。
- エ 知子の恋愛や縁談をめぐる母と娘の心情が描かれているが、何も言わないことで母が娘の心の傷を癒やす様子や自分より娘のことを思う母への娘の複雑な思いを伝えている。
- オ 知子の視点を中心に、知子が恋愛での失敗を経て、縁談の際には相手の男性の性格や真意を冷静に見抜くようになった様子が描かれており、知子の成長が感じられる。

(三) 次の文中の空欄にあてはまる最も適当な語句を選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 成功まで数多くの()をなめた。

ア 辛勝 イ 辛気 ウ 辛酸 エ 辛抱

② 誰からも信頼される彼は、口が()ので、秘密は守られるはずだ。

ア 重い イ 堅い ウ 軽い エ 遅い

③ ()は「杓子定規」と同義の言葉だ。

ア 臨機応変 イ 四角四面 ウ 呉越同舟 エ 寒山拾得

④ 果物は()菓子ともいわれる。

ア 水 イ 生 ウ 駄 エ 南蛮

⑤ 彼女は腹を立てているのか、口調が()。

ア さむざむしい イ おどろおどろしい ウ とげとげしい エ すがすがしい

⑥ 今日のパーティーの司会者は()嬢として有名な人だ。

ア ホトトギス イ ヒバリ ウ ウグイス エ ツバメ

⑦ 「華燭の典」とは()のことである。

ア 結婚式 イ 成人式 ウ 華道展 エ 前夜式

⑧ 行くべきか、行かないでおくべきか、()に陥る。

ア クリアー イ ジレンマ ウ イルージョン エ アバウト

⑨宝くじが当たり、彼女は（ ）している。

ア すくすく イ めそめそ ウ さやさや

エ ほくほく

⑩決戦は、血わき肉（ ）ようなゲーム展開だった。

ア ゆだる イ おどる ウ めぐる エ はしる

